

実習日：平成 28 年度第Ⅱ期 11 月 9 日

実習先：大分市医師会立アルメイダ病院

大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年

氏名：加藤 秀樹

今回の実習を通して、今後薬剤師として働いていく上では、患者・家族に寄り添えることのできる人間性が最も重要になると感じました。

患者の感じる苦痛には、痛みなどの身体的苦痛、不安などの精神的苦痛、および、経済面や仕事に対する社会的苦痛があります。さらに末期の患者では、これに加えて生きがいの喪失に伴う苦痛(スピリチュアル的苦痛)を伴います。これらの苦痛を軽減するために鎮痛薬の投与や患者・家族への精神的ケアを行います。

身体的苦痛に関しては、患者の状態や希望を踏まえ、最適な薬剤を選択することでケアを行います。この選択の際には、いかに患者に寄り添えるか否かで、身体的苦痛のみならず、それに伴うスピリチュアル的苦痛などの改善の程度も異なると感じました。

精神的苦痛などのケアには、患者・家族に対する配慮が不可欠です。そのため、施設の環境整備だけでなく、患者・家族に安心感や信頼感を与えられるような医療スタッフの存在が重要になります。そして、患者・家族に安心感や信頼感を与えられる医療スタッフは患者に寄り添うことのできる医療スタッフだと感じました。

今回の実習で、価値観は人それぞれということを再認識できました。今後は、専門的知識は勿論のこと、多くの人と関わり、多くの価値観を学ぶことで、人間性を磨いていきたいと思います。そして、患者・家族に寄り添えることのできる薬剤師になりたいと思います。